

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370877

研究課題名(和文) 多民族都市レスターの多宗教統合とアフリカン・カリビアンたち

研究課題名(英文) Multi-faith Integration and African-Caribbeans in the Multi-ethnic City of Leicester

研究代表者

佐藤 清隆 (Sato, Kiyotaka)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：90235333

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、第二次世界大戦以後のイギリスにおける多民族都市レスターのブラック系(主としてアフリカン・カリビアン)移民コミュニティの歴史を、「宗教」を中心に据えて明らかにした。その際、イギリスの多文化主義政策によるレスターの多宗教統合との関連を重視した。また、本研究の過程で、数多くのインタビューを実施し、「多宗教・多文化の歴史研究所」(明治大学)から『記憶と語り』シリーズ(英語版)の一部として3冊のブックレットを刊行した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this project has been to investigate the history of Black (mainly African-Caribbean) immigrants communities in the multi-ethnic city of Leicester from the end of the Second World War, focussing primarily on the issue of religion(mainly Christianity).My particular emphasis has been on their relationship to the process of multi-faith integration in Leicester, which has taken place in the context of more general multicultural policies applied across Britain as a whole. I have conducted interviews with a number of individuals and have produced three publications in English as part of the 'Memory and Narrative' series published by the Rearch Centre for the History of Religious and Cultural Diversity at Meiji University.

研究分野：人文学

キーワード：イギリス 多民族都市レスター 多宗教統合 アフリカン・カリビアン ブラック・ヒストリー 宗教  
パーソナル・ナラティブ

### 1. 研究開始当初の背景

申請者が本研究の着想に至ったのは、在外研究で2001年から約1年間レスターに滞在した折、移民自身が都市の多民族・多宗教統合に大きく貢献している現実を目の当たりにし、こうしたテーマを研究することが、日本の将来を含め、「多民族・多宗教共生の問題」を考えていく上で役立つと考えたからである。その後、地元紙『レスター・マーキュリ』(以下、LMと略記)を定期購読し(なお、地元紙による申請者の紹介はLM, 26 July, 2004を参照)、さらにほぼ年2回現地に足を運び、「宗教」を中心にレスターの歴史や文化について研究・調査を続けてきている。しかし、これらの調査の過程で、以下の二つの問題を研究する必要性を認識するようになった。その一つは、レスターの公的なイメージ(例えば、「民族・宗教関係がうまくいっている稀有な都市」と現実との「ギャップ」の問題であり、もう一つは民族・宗教間の関係、各民族・宗教内の多様性や差別(例えば、カーストによる差別)の問題である。

最初の頃は、移民のなかの多数派で、レスターへの多大な貢献について指摘されている南アジア系、とりわけインド系移民の「宗教」に焦点を当てて研究・調査を進めたが、その調査の過程で、移民の多数派だけでなく、少数派側からもレスターの歴史や文化を研究する必要性を痛感するようになった。その理由は、アフリカン・カリビアン(以下、カリビアンと略記)女性の『記憶と語り』シリーズの編集作業や他のカリビアンとのインタビューの過程で、彼らの歴史や文化を南アジア系移民と同じように論ずることの難しさに気づいたからである。

### 2. 研究の目的

本研究課題の申請時における当初の研究目的は、次の通りであった。申請者のそれまでの南アジア系移民の研究成果を踏まえ、「宗教」を中心にブラック系(とくにカリビアン)移民の歴史や文化を各民族・宗教内部や民族・宗教間の問題にも注意を払いつつ、イギリスの多文化主義政策によるレスターの多民族・宗教統合との関連で明らかにすることであった。そして、カリビアン側から、従来の研究とは異なる、より立体的・重層的なイギリス型多民族・多宗教都市のモデルを構築する素材を提供することであった。

### 3. 研究の方法

本研究課題の研究方法は次の二つであった。その一つは、ホスト社会との関連で、個人や家族の「ライフ・ストーリー」からみた「故郷」、ディアスポラ・アイデンティティ、イギリス社会への適応過程、レイシズム、ネットワークの問題を扱うこと。もう一つは、カリビアン「核」となるコミュニティ・センター・キリスト教会・イベントの歴史や文化を明らかにすることで、イギリスの多文

化主義に潜む「陥穽」について新知見を得ることであった。

具体的な方法としては、関係者とのインタビューやその「語り」の分析、「コミュニティ・センター」やキリスト教会の訪問、イベントへの参加、文書館や図書館での史料収集などであった。

### 4. 研究成果

本研究では、多民族都市レスターの南アジア系移民やホワイト系移民の動向にも目を配りながら、カリビアン・コミュニティの歴史や文化を中心に考察を試みた。

(1) 2013年度から2015年度にかけて、多民族都市レスターの「好評判」再考に向け、カリビアンに関して彼らとのインタビュー、教会訪問、イベント(カリビアン・カーニバル)の参加などの現地調査を実施した。とくにインタビューに関しては、多くの「個人のライフ・ストーリー」を蓄積し、その一部は以下の論文や『インタビュー集』などで利用された。

○今後の研究の基礎史料となるインタビューの内容紹介を中心とする論文「多民族都市レスターのアフリカン・カリビアンたち」(『明治大学人文科学研究紀要』第74冊)を執筆した。こうした「個人のライフ・ストーリー」の紹介は、これまでほとんどなされていない。

○「レスター・カリビアン・カーニバル」の初代委員長を務めたカリビアン女性のライフ・ストーリーを用い、「戦後レスターの多民族統合とアフリカン・カリビアン」と題する論文を執筆した(『英国を知る』(同学社)の一章として刊行予定[印刷中])。

(2) 明治大学特定課題研究ユニットの「多宗教・多文化の歴史研究所」から『記憶と語り』シリーズの一部として三冊(Nos.6~8)を刊行した。一冊目(no.6, 2013年)は、ホワイトとブラックとの間に生を受けたハイブリットのライフ・ストーリーである。本ブックレットの内容は、レスターの多民族社会の歴史は言うまでもなく、カリビアンやブラックの歴史とも深く関連している。この書評は、レスタシャの著名な歴史学雑誌 *Leicestershire Historian* (no.50, 2014) や日本の歴史学雑誌(英文) *The East Asian Journal of British History* (vol.4, March 2014) に掲載された。

二冊目(no.7, 2014)は、レスターに居住するラトビア系移民とその妻(イングリッシュ)に関するライフ・ストーリーである。本ブックレットは、少数派のホワイト系移民から、カリビアンをも含む多民族都市レスターの歴史や文化の一端を浮き彫りにしている。この書評は、雑誌 *Leicestershire Historian* (no.51, 2015) や *Immigration, Asylum and Nationality Law* (vol.29, no.3, 2015) に掲載された。三冊目(no.8, 2015)は、レスターに居住するヒンドゥー寺院のプレジデ

ントのライフ・ストーリーである。このブックレットは、移民のうち、多数派を占めるインド系移民から、カリビアンも含む多民族都市レスターの歴史や文化の変容を明らかにしている。

なお、このシリーズについては、国内外で、nos.1-5 に対する Colin Hyde の書評(『駿台史学』)が掲載され、またレスターの地元紙 *Leicester Mercury*(27 October 2012), BBC Radio Leicester (24 August 2014; 30 August 2014)、『日本経済新聞』の「文化欄」(2015年8月14日)などでも紹介された。

(3) 明治大学国際交流基金外国人識者招聘事業の一環として、レスター大学名誉教授のリチャード・ボニー氏を招き、イギリスの移民問題とも深く関連する在英イスラームやイギリス帝国の歴史に関するセミナーを計4回開催した。とくに、「イギリスにおけるイスラーム史」の問題は、日本のイギリス史研究においてはほとんど研究されてこなかったテーマである。また、ボニー氏の妻マーガレット・ボニー博士(レスターシャおよびレスター、ラトランド文書館元館長)にも、「歴史をつくる 未来のアーカイヴをつくるために地域コミュニティとともに働くアーキヴィスト」という題で講演をしてもらった。日本では全く知られていないイギリスの一地方文書館の新たな動きを、彼女がかかわってきた5つの異なるコミュニティ・歴史プロジェクトの経験を通して語ってもらった。これらは、日本語訳付きで『招請外国人研究者講演録』(No.3、2014年3月)と『学術国際交流参考資料集』(No.352、2014年3月)、『ディスカッション・ペーパー』(第3号)に掲載された。

(4) 海外の研究者たちにオーラル・ヒストリーに関する論文を寄稿してもらい、本「歴史研究所」から『ディスカッション・ペーパー』第4号~第6号を刊行した。寄稿者は、シンシア・ブラウン(レスター大学都市史センター付属のイースト・ミッドランズ・アーカイブ元所長)、リチャード・ボニー(レスター大学名誉教授)、エリナ・ネズビット(ウォリック大学名誉教授)である。これらの刊行は、新たな学際的国際交流の成果の一部である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

1. 佐藤清隆「多民族都市レスターのホワイト系移民たち 在英アイルランド系移民の『ライフ・ストーリー』から」(『明治大学人文科学研究所紀要』第79冊、2016年3月31日、53~88頁) [査読あり]

2. 佐藤清隆「多民族都市レスターのアフリカン・カリビアンたち」(『明治大学人文科学研究所紀要』第79冊、2014年3月31日、73~110頁) [査読あり]

3. 佐藤清隆「移民たちの語りとアイデンティティ 戦後イギリスの多民族都市レスターの事例から」(長谷川貴彦(編)「語りのかたち パーソナル・ナラティブの歴史学」(『西洋史学』第251号、2013年12月、22-24頁) [査読あり]

[学会発表](計2件)

1. 東洋大学人間科学総合研究所主催の研究会報告「多民族都市レスターの多宗教統合と『祝祭』 在英シクの『バイサキ』の事例を中心に」(2014年5月28日、於・東洋大学)
2. 明治大学西洋史OBフォーラム「戦後イギリスにおけるシク・コミュニティの分裂とカースト制 多民族都市レスターのシク教徒の『語り』から」(2014年3月28日、於・明治大学)

[図書](計4件)

1. 佐藤清隆「戦後レスターの多民族統合とアフリカン・カリビアン エルヴィの『語り』から見えてくる世界」(道重一郎編『英国を知る』(同学社)2016年(再校終了、近刊予定))
2. Kiyotaka Sato (edited and written), *The Life Story of Mr Ramanbhai Barber, MBE, DL: The President of the Shree Sanatan Mandir in Leicester*, Tokyo: Research Centre for the History of Religious and Cultural Diversity (RCHRC), June 2015, pp.234(Memory and Narrative Series 8)[Foreword by Emeritus Professor Werner Menski, The School of Oriental and African Studies (SOAS), University of London].
3. Kiyotaka Sato (edited and written), *The Life Story of Mr Andrejs Ozolins, a Latvian, and His Wife Mrs Dulcie Ozolins*, Tokyo: RCHRC, June 2014, pp.236(Memory and

Narrative Series 7)[Foreword by Dr Margaret Bonney, Former Chief Archivist, Record Office for Leicestershire, Leicester & Rutland].

4. Kiyotaka Sato (edited and written), *Life Story of Mr Terry Harrison, MBE: His Identity as a Person of Mixed Heritage*, Tokyo:RCHRC, June 2013, pp.161(Memory and Narrative Series 6)[Foreword by Mr Colin Hyde, The East Midlands Oral History Archive, University of Leicester].

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

〔翻訳〕(計4本)[いずれも共訳]

1. リチャード・ボニー(穴井佑・佐藤史子・佐藤清隆訳)「1960年代以前のイギリスにおけるイスラーム」(『多宗教・多文化の歴史研究所ディスカッション・ペーパー』第3号、2014年10月、43-54頁)

2. リチャード・ボニー(黒崎周一・佐藤史子・佐藤清隆訳)「1960年代以降のイギリスにおけるイスラーム」(『多宗教・多文化の歴史研究所ディスカッション・ペーパー』第3号、2014年10月、55-71頁)

3. リチャード・ボニー(黒崎周一・大橋里

見・佐藤清隆訳「帝国なきイギリス アイデンティティの危機」(『明治大学国際交流基金事業招請外国人研究者講演録』no.3、2014年3月、27-37頁)

4. マーガレット・ボニー(三野村京子・大橋里見・佐藤清隆訳「歴史をつくる 未来のアーカイブをつくるために地域コミュニティとともに働くアーキヴィスト」『学術国際交流参考資料集』2014年3月、23-39頁)

〔序文の執筆その他〕(計3本)

1. 佐藤清隆「第6号の刊行にあたって」(i-ii頁)、掲載論文: Eleanor Nesbitt, 'Oral History and the Study of Religions: Reflections on Professor Kiyotaka Sato's Memory and Narrative Series' (同上、第6号、2015年7月、1-26頁)

2. 佐藤清隆「第5号の刊行にあたって」(i-ii頁)、掲載論文: Richard Bonney, 'Memory, Testimony and Life Stories: New Approaches to Biography' (同上、第5号、2015年6月、1-39頁)。

3. 佐藤清隆「第4号の刊行にあたって」(i-ii頁) 同「シンシア・ブラウンの紹介」(30-31頁)。掲載論文: Cynthia Brown, 'Oral History as a Historical Source: Strengths and Challenges' (『多宗教・多文化の歴史研究所ディスカッション・ペーパー』第4号、2015年5月、1-28頁)。

〔新聞記事〕(計1本)

1. 佐藤清隆「移民の街ドラマ聞き歩記」(『日本経済新聞』の「文化欄」(2015年8月14日朝刊))

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤清隆 (SATO KIYOTAKA)

明治大学・文学部・教授

研究者番号: 90235333

(2) 研究分担者

( )

研究者番号:

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：